

「首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業」まとめ【概略版】

教育委員会名	東みよし町教育委員会
研究課題	首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業 0 歳から 15 歳までの教育を支えるコミュニティの構築及び地域教育ビジョンの策定と実現のための具体的方策の検討
研究のねらい	※要点をまとめ、簡潔に記入してください。 ○東みよし町は、全小中学校 6 校がコミュニティ・スクールである。町コミュニティ・スクール連携協議会と各学校、さらには首長部局等が連携・協働し一人の子供の 0 歳から 15 歳までの育ちを見据えた教育ビジョンを策定し、町民総がかりの教育と町を担う人材の育成を図る。 ○町民とともに進める人材育成により町が抱える問題解決を図る。 ○コミュニティ・スクールを核とし、地域のつながりや絆の構築を進めることで防災や減災の効果をもたらすと共に、地域の活性化を図る。
研究の概要	※取組の内容について、具体的に要点をまとめて記入してください。 ○各学校においてコミュニティ・スクールの充実を図った。 ○コミュニティ・スクールを基盤として、首長部局等との連携を進めた。 ○幼・小・中連携、小中一貫教育・元気な阿波っ子育成・本事業の 4 事業連携を進め、教職員の業務負担軽減を図りながら、地域教育ビジョンの策定と実現のための具体的方策を追究した。 ○4 事業連携検討会、小中一貫教育実務担当者会、学校運営協議会、町 CS 連携協議会、首長部局等との協働事業連絡会等、各種会議・研修会を企画し、その中で熟議を多数実施した。 ○各校防災訓練・学習において、首長部局等との協働を進めた。
研究の成果	※要点をまとめ具体的に記入してください。 ＜全体的な成果＞ 幼小中連携推進、小中一貫教育推進、元気な阿波っ子育成各事業と連携し、コミュニティ・スクールを基盤として本事業を進めたことで、教育に関わる多くの人々との意思疎通が図られ、町の教育ビジョンの策定と共有、さらには、実現のための方策をより多くの人を巻き込んで進める事ができた。東みよし町でどのような人材を育て、どのような力を子供に付けたいのか、教職員、コミュニティ・スクール関係者、首長部局職員、大学教員、福祉施設職員等が様々な場で熟議を重ねた。その結果、立場は違うがそれぞれの思いに触れ、新たな取組のアイデアが生まれ実現につながっている。 ＜加茂小学校＞ ○平成 20 年からスタートした本校のコミュニティ・スクールも、本年度、首長部局や大学等との協働をすすめたことで、さらに活動の幅が広がり、児童は、豊かな体験をすることができている。中でも、いきいき茶道クラブでは、礼儀作法など、古来よりの文化を体験し、低学年から高学年児童まで真剣に取り組む様子は視察に訪れた方を驚かせ賞賛をいただいた。 ○大学との協働で進めた英語活動は、外国語学習のへの入り口を広げた。 ＜三庄小学校＞ ○事務職員の加配により標準的職務の負担軽減が図られ、より一層コミュニティ・スクールの運営に参画できるようになり、学校支援隊の活動内容の充実が図られた。

<昼間小学校>

○事務職員 2 名は新任 2 年目の初任者と臨時的任用職員であるが、支援隊等との積極的なコミュニケーションができ、活動の充実と内容や幅が広がった。若い事務職員や臨時職員でも、事務グループによる組織的な支援や活動により CS でコーディネーターとしての役割を果たしていけることが示せた。

<足代小学校>

○学校・保護者・地域・社会福祉協議会協働の体験型地域防災学習を実施し、有事の際の対応や体験を行うことで、災害に対する知識と心構えを得ることができた。また、地域の方の協力が得られたことにより、児童・保護者・地域の絆を育むことができ、新たな活動への地域の活性化に繋がった。

<三好中学校>

○運営協議会委員が中心となり行った防災学習では、役場総務課、社会福祉協議会・NPO 法人・校区内地域防災組織との協働を図りながら実施することができ、これからの新たな地域と共に進める防災への布石となった。多くの気づきや次回実施への改善点が得られた。

○認知症サポーター養成講座では、福祉施設との協働により町が抱える少子高齢化による問題の確認と具体的な対応策について生徒が保護者・地域住民とともに考える機会となった。

<三加茂中学校>

○元気な阿波っ子！育成事業との連携では、町健康づくり課・三好保健所との協働により、肥満・生活習慣病の予防についての学習や体験を深めることができた。また、自己肯定感の醸成も図られた。

○校区内小学校支援隊研修会へコーディネーターの事務長を派遣し、取組についてプレゼンを行った結果、三加茂中学校での支援拡大につながった。

<事務グループ（共同実施）>

○町の教育ビジョン、キャリア教育全体計画、小中連携カリキュラムの策定に関わる中で、小中学校双方の特性をよく理解する事務職員の強みを生かすことができ、校種間文化の相互理解に貢献できた。

○学校支援隊、首長部局、大学等関係機関との連携をコーディネーターとして常に中心になって進めることで、教員の業務負担の軽減を図ることができた。

○各種会議・研修会等の企画運営で、事務職員・事務グループの企画力・行動力を発揮し、会議・研修会等の円滑な実施と充実を図ることができた。

○事務グループで常に組織として町全体の学校運営について考え取り組むことで、若い事務職員の育成にもつながり、コミュニティ・スクールの運営や首長部局等との協働を推進する核となれることを示せた。



首長部局等との協働による新たな学校モデル構築事業推進に関する連絡会での熟議の様子

本件

問い合わせ先

※教育委員会名、担当部署 TEL: FAX: E-mail:

東みよし町教育委員会 学校教育課 TEL:0883-79-3630 FAX:0883-79-5060

E-mail kyouiku01@town.higashimiyoshi.lg.jp

「首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業」まとめ【概略版】

教育委員会名	三木町教育委員会
研究課題	首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業
研究のねらい	○ みんなで子どもや子育て世代を守る町「三木町」の基盤となるコミュニティの在り方と取り組みの発展・拡充 ○ コミュニティ・スクールの運営に伴う、首長部局・教育委員会、保護者や地域との連携構築とコミュニティ・スクールの運営に伴う事務的な機能や情報発信力の強化
研究の概要	【田中小学校】 ① 首長部局との連携による事務局の業務内容や役割分担の再構築 ② 計画段階からの、関係者・機関との効果的な連携と運営の推進 ③ 学習サポーターや見守り隊等の募集地域の町全体への拡大 ④ 運営に関するアンケート調査による成果と課題の検証 【白山小学校】 ① コミュニティ・スクール事務局、加配職員の業務内容の分担、充実 ② 情報収集に関する業務の推進 ③ コミュニティ・スクール運営に関する振り返り・評価
研究の成果	【田中小学校】 ① 加配の学校事務職員を、学校と首長部局・地域・保護者との連携を図るコーディネーターとして位置付けることにより、円滑で活発な運営ができた。 ② 行事の計画や検証段階から、地域住民・保護者、各サポーターと相談したり、中学校と連携したりして、多くの行事を運営することができた。 ③ コミュニティ・スクールだよりやホームページでの効果的な情報発信を地域から町全体へ拡充することで、三木町コミュニティのスタートにつなげることができた。  ④ アンケート結果から、加配事務職員の配置や連携・情報発信の拡大による活性化等の成果を得ることができた。加配事務職員の複数年の配置等の課題も明らかにできた。 【白山小学校】 ① 3つの「学習部会」「生活部会」「健康部会」の委員やサポーターの意見を十分に生かしつつ、各行事の計画や準備を行った。また、各種団体の代表と連携を深めながら人材の効果的な活用にも努めた。事前打ち合わせ会の案内など事務的対応、会合の準備を行った。 ② コミュニティ・スクールだよりを1年間に10号作成し、三木町役場に掲示する等、発信することができた。コミュニティ・スクール啓発用リーフレットも改善し、町内小中学校等へ情報発信するとともに、保護者・校区内は全戸に配布できた。  ③ コミュニティ・スクールの運営に関する事務は多様で量も膨大であり、加配事務職員が教頭、学級担任であるコミュニティ・スクール担当教員と分担し業務を行っている。そのため、担当教員や教頭が本来の学校運営や教科指導等とバランスよく取り組めるようになり、教職員・学校運営協議会委員から評価を得ることができた。
本件 問い合わせ先	三木町教育委員会 教育総務課 TEL:087(891)3313 FAX:087(898)1994 E-mail:kyoikusomu@town.miki.lg.jp

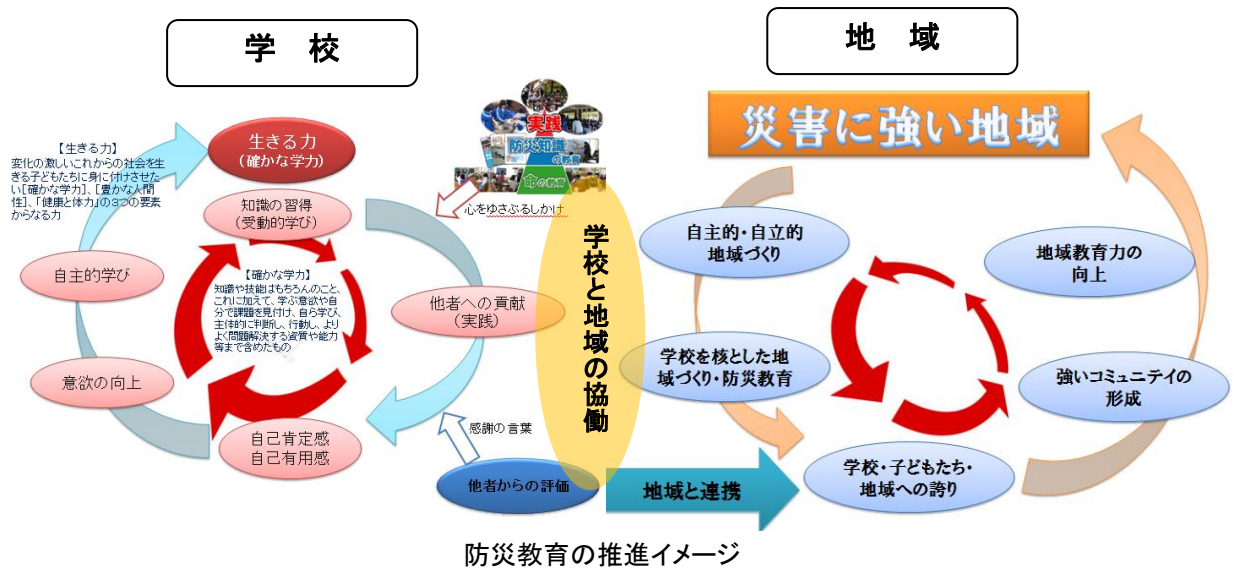
「首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業」まとめ【概略版】

教育委員会名	黒潮町教育委員会
研究課題	首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業 命の教育を土台とした地震津波防災教育の推進
研究のねらい	当町は南海トラフ地震による津波想定が内閣府の発表で 34 メートルと、全国一高い想定高を受けた町である。そのため平成 26 年度当町では、「津波防災教育プログラム」を取りまとめ、27 年度からは、このプログラムを元に各校、各教諭が、児童生徒の内発的な自助・共助意識の育成、最善を尽くそうと考えて行動する姿勢、地域を愛し、郷土のために尽くそうとする心や、地域と連携した防災訓練、防災教育活動を推進することで、黒潮町の防災文化の醸成し、防災教育が、児童生徒の学力の向上やいじめの防止、生きる力の育成など、教育本来の目的を達成できることを明らかにすることが、当実践研究のねらいである。 (＊防災教育推進イメージ参考)
研究の概要	①授業研究のための作業部会の開催 ②防災教育推進のための連絡協議会の開催 ③公開研究授業 ④研究協議 ⑤防災教育研究発表会 ⑥防災教育講演会の開催 ⑦防災教育実践事例集の編集
研究の成果	①すべての学年において、実践授業事例が提出され事例集としてまとめることができた。 ②27 年度県標準学力テスト（1 月開催）の結果において、高知県平均に対して、中学校では、1 年生の国語が 1.3 ポイント、外国語が 0.7 ポイント下回ったほかは、他の教科は 0.7 ポイントから 3.1 ポイント上回った。2 年生はすべての教科、4.6～6.7 ポイント上回る結果となった。 ③中学校においては生徒に落ち着きが見られ、学習態度の向上が図られた。 ④ほとんどの学校で Q-U 調査において、不満足群がゼロに近づいた。 ⑤小学校の取り組みを地域住民も参画するシンポジウムで発表することで、地域の学校に対する評価が向上するとともに、子どもたちの自己有用感、自己肯定感が高まり、自主的な学びの力の向上につながった。 ⑥教育長部局と首長部局が連携を取り、防災教育事業に取り組んだ結果、学校と地域との連携協働意識の醸成につながった。
本件 問い合わせ先	黒潮町教育委員会 TEL:0880-55-3190 FAX:0880-55-2851 E-mail: kyoiku@town.kuroshio.lg.jp

※MS ゴシック、11P で作成してください。

本概要版は研究成果物（研究報告書）の概略版として、HP に掲載する予定です。

A4 2 枚以内で図や表、写真などを入れわかりやすくご記入ください。

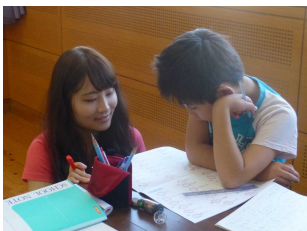


地区防災計画シンポジウムでの田ノ口小学校 6 年生の発表の模様



公開授業の後の研究協議(ワークショップ)の模様

「首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業」まとめ【概略版】

教育委員会名	春日市教育委員会																																																																																																	
研究課題	首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業																																																																																																	
研究のねらい	学校、家庭、地域、関係機関、首長部局関係所管、教育委員会が協力しながら、生まれてからの15年間を見据えた15年子育てサポート体制の構築を図り、今日的な教育課題である学力二極化や不登校等の問題の解決に当たる。																																																																																																	
研究の概要	① 15年子育てサポート連絡協議会 (学校、PTA、自治会、福祉所管4課、地域づくり課、教育委員会3課) ◇就学前サポート検討や保幼小中の相互理解深化のため協議会を開催する。 ◇関係機関が密な情報共有を行い(幼稚園、小学校相互見学)、理解を深める。 ◇各機関の関係構築により事例発生時のスムーズな連携を可能とする。																																																																																																	
	② 15年子育てサポートリーフレット (学校、PTA、自治会、福祉所管4課、地域づくり課、教育委員会3課) ◇子育ての困り感を解消する手立てとする。 ◇健康や学力づくりの重要性を就学前から伝える。 ◇生まれてから中学校を卒業するまでの15年間の子育てに連続性をもたせる。 ◇各小中学校、保育所、保育園、幼稚園の紹介、子育て支援施設紹介、マップを掲載する。 ◇幼保小中全保護者へ配付する他、学校説明会や保育園見学会、公民館・市役所への設置等様々な機会を捉えて配付する。																																																																																																	
	③ かすがっ子土曜教室(近隣大学、春日高校、社会福祉協議会、おやじの会) ◇子どもの学習のつまづきをサポートし(国語、算数中心)、学力の向上を図る。 ◇職業や身近な社会に関心を持たせ、学習意欲を高める。(12月開催分)																																																																																																	
	<table><tr><td rowspan="4">参加児童</td><td>学年</td><td>8月1日</td><td>9月5日</td><td>10月3日</td><td>11月7日</td><td>12月5日</td><td>計</td></tr><tr><td>低学年</td><td>23</td><td>23</td><td>28</td><td>27</td><td>11</td><td>112</td></tr><tr><td>中学年</td><td>14</td><td>17</td><td>19</td><td>20</td><td>5</td><td>75</td></tr><tr><td>高学年</td><td>12</td><td>11</td><td>23</td><td>18</td><td>7</td><td>71</td></tr><tr><td colspan="2">参加児童数計</td><td>49</td><td>51</td><td>70</td><td>65</td><td>23</td><td>258</td></tr></table>		参加児童	学年	8月1日	9月5日	10月3日	11月7日	12月5日	計	低学年	23	23	28	27	11	112	中学年	14	17	19	20	5	75	高学年	12	11	23	18	7	71	参加児童数計		49	51	70	65	23	258	<table><tr><td rowspan="7">ボランティア</td><td>所属</td><td>8月1日</td><td>9月5日</td><td>10月3日</td><td>11月7日</td><td>12月5日</td><td>計</td></tr><tr><td>福岡女学院大学</td><td>5</td><td>6</td><td>1</td><td>3</td><td>4</td><td>19</td></tr><tr><td>精華女子短期大学</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>2</td></tr><tr><td>中村学園大学</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td></tr><tr><td>春日高校</td><td>8</td><td>5</td><td>7</td><td>10</td><td>0</td><td>30</td></tr><tr><td>春日小学校卒業生</td><td>2</td><td>3</td><td>3</td><td>0</td><td>0</td><td>8</td></tr><tr><td>おやじの会</td><td>4</td><td>3</td><td>0</td><td>0</td><td>5</td><td>12</td></tr><tr><td colspan="2">ボランティア数計</td><td>19</td><td>18</td><td>12</td><td>14</td><td>9</td><td>72</td></tr></table>	ボランティア	所属	8月1日	9月5日	10月3日	11月7日	12月5日	計	福岡女学院大学	5	6	1	3	4	19	精華女子短期大学	0	0	1	1	0	2	中村学園大学	0	1	0	0	0	1	春日高校	8	5	7	10	0	30	春日小学校卒業生	2	3	3	0	0	8	おやじの会	4	3	0	0	5	12	ボランティア数計		19	18	12	14	9	72
	参加児童			学年	8月1日	9月5日	10月3日	11月7日	12月5日	計																																																																																								
				低学年	23	23	28	27	11	112																																																																																								
				中学年	14	17	19	20	5	75																																																																																								
			高学年	12	11	23	18	7	71																																																																																									
	参加児童数計		49	51	70	65	23	258																																																																																										
	ボランティア		所属	8月1日	9月5日	10月3日	11月7日	12月5日	計																																																																																									
福岡女学院大学		5	6	1	3	4	19																																																																																											
精華女子短期大学		0	0	1	1	0	2																																																																																											
中村学園大学		0	1	0	0	0	1																																																																																											
春日高校		8	5	7	10	0	30																																																																																											
春日小学校卒業生		2	3	3	0	0	8																																																																																											
おやじの会		4	3	0	0	5	12																																																																																											
ボランティア数計		19	18	12	14	9	72																																																																																											
																																																																																																		

④ 春日小学校校区通学合宿（自治会、健康課、社会教育課、教務課）

◇地域の人たちからの協力を得て（サポーター延べ122名）、子どもたちが公民館で集団生活をしながら炊事や洗濯等を自分たちの力でやり学校へ通う。

◇自分の生活を見つめ、基本的な生活習慣を身に付ける。

◇共同生活を通じて、友達や地域の人とのふれあいを深め、感謝の気持ちを育てる。



時 間	内 容
6:00	起床・洗面・健康チェック・ラジオ体操
6:30	朝食準備（2班）・朝食・後片付け（2班）
7:40	登校
	学校で勉強
15:00 (16:00)	下校
16:30 (16:30)	確認タイム
16:45 (16:45)	（買い物）夕食準備
18:00	夕食
18:30	夕食の片付け
19:00	入浴
20:00	宿題タイム
21:00	班会議、健康チェック、就寝準備
21:30	就寝

⑤ 地域ぐるみあいさつ運動「うれしい朝月曜日」

（商工会、2商店会、近隣住民・企業・商店、社会福祉協議会、地域づくり課、教務課）

◇通学路付近会社・店舗の方々、地域住民が、毎週月曜日7時40分から8時10分の時間帯に10分間外に出て、登校中児童生徒に挨拶・声かけを行う。

◇地域ぐるみの活動を通して地域教育力向上を図る。

◇行き渋りが見られる月曜日の朝に挨拶運動を行い、不登校対策の一助とする。

◇チラシ、ポスター、腕章作成（春日中美術教諭デザイン）



⑥ 中学校子育てサロン（社会福祉協議会、自治会、自治会子育てサロン、教務課）

◇昇町、小倉地区各公民館の子育てサロンを中学校に移し、第三学年総合の学習の時間で行う。

◇中学生の情操教育、サロン場所の拡充による子育て不安の解消を図る。



研究の成果

① 15年子育てサポート連絡協議会

○各機関での情報共有及び関係構築 ○福祉所管による指導・助言

② 15年子育てサポートリーフレット

○リーフレットの有効性実証 ○保護者による活用 ○広範配付による事業PR

③ かすがっ子土曜教室

○子どもの学力、意欲向上 ○多様なボランティアによる子どもへの柔軟な対応

④ 春日小学校校区通学合宿

○子どもの自主性、協調性の確立 ○生活習慣確立の契機

⑤ 地域ぐるみのあいさつ運動「うれしい朝月曜日」

○新たな地域協力者（企業・商店等）の発掘 ○ポスター等による本研究事業PR

⑥ 中学校子育てサロン

○「子育て」「命」等科目の実践的役割としての位置付け及び情操意識向上

本件

問い合わせ先

春日市教育委員会 学校教育課教務課教育総務担当

TEL:092-584-1128 FAX:092-584-1153 E-mail:kyoumu@city.kasuga.fukuoka.jp